

平成18年度「専修学校を活用した職業意識の啓発推進」成果報告書

事業名	職業意識啓発講演会の開催と高等学校内での職業体験準備講習会の開催		
法人名	社団法人沖縄県専修学校各種学校協会		
学校名			
代表者	会長 名城 政次郎	担当者 連絡先	新井 由夫 TEL 098-832-5166

1. 事業の概要

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

沖縄県は、全国ワーストの失業率と新規学卒者の無業者数及び就職内定率の改善が急務となっている。そのため、高校生を中心とする若年者の職業意識啓発の機会として講演会の開催を実施し、また、沖縄県内全高校生のインターンシップの義務化に対応する職業体験準備講座(インターンシップ準備講座)を各高校内で実施した。

また、職業体験準備講座の実施にあたり、ビジネスマナーを中心とした「インターンシップ準備講座」(講座資料)とその講師用マニュアルの作成、及び職業別講話ガイダンスのために13分野の職業別に講師用マニュアルと分野内での「しごと紹介」(配布用A3)を作成し、職業体験講習会の内容の統一とクオリティの統一を図った。

②事業により得られた成果

「インターンシップ準備講座」及び分野別の「職業別講話ガイダンス」の講師マニュアルを作成したことにより、これまでは限られた講師しか派遣できませんでしたが、この2つのマニュアルにより専門外の職種・職業についてもある程度の内容と質の統一性を保てるために、派遣講師の確保が容易になった。また、職業教育のニーズが高まる中、職業教育者としての意識と自信が派遣講師の多くが自覚する良い機会になったことも成果のひとつである。

また、職業意識啓発講演会や職業別講話ガイダンスなど講習会では、単に職業の紹介だけではなく、講師自身の仕事に関するエピソードなどを入れ、より身近な問題としてしごとを捉えてもらうことに重点を置いた。そのため、高校生(受講生)の職業選択の幅がひろがり、自信をもちやる気を引き出せた。講師が自信をもって生き生きとして「しごと」の話をすれば、受講生(高校生)はしごとはすばらしいものだとおもってくれます。

③今後の活用

今後ともこの事業は、職業教育の担い手として本格的に取り組む、継続して行く。高等学校での実施回数を増やしたり、また、中学生への展開も含めて考えていきたいと思っています。

④次年度以降における課題・展開

知識的な内容のマニュアルはできあがったが、個人のエピソードやマニュアル以外のところでは個人の力量になってくる。そのためにも、定期的マニュアルの見直しも含め、講師育成のための研修会を定期的実施し、クオリティをより高いものにする必要がある。また、学生からの質問や講習会での問題を個人の問題で終わるのではなく、派遣講師全体の問題として、情報の共有化やデータベース化をはかり、マニュアルの完成度を上げて行きたい。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

■職業体験準備講習会

どの講師が高校で準備講座を実施しても、同じ内容と同じクオリティを保つことを重要視しました。そのため、インターンシップ準備講座用の資料冊子とその講師用マニュアルを作成しました。また、高校生に仕事のことをもっと知ってもらい興味を持ってもらうために、職業を13分野に分類し、そのそれぞれの分野ごとに講師用のマニュアルの作成と配布用の「しごと紹介」資料を作成しました。また、出来上がったマニュアルの使用の仕方、注意点などを含めた講師用の研修会も実施し、統一性をもたせました。

- ・インターンシップ準備講座(マナー講習含め) 実施数 県内高校16校 59クラス 受講生 2060名
- ・職業別講話ガイダンス 実施数 県内高校46校 384クラス 受講生 6634名

■職業意識啓発講演会

沖縄県内で活躍しているミュージシャン”下地勇”氏とお笑い集団「オリジン」代表の真栄平房修氏を招き、二人の生き方や職業観などを話していただき、高校生の職業意識を啓発させることを目的として実施しました。

- ・9月13日 講演者:下地勇 会場:沖縄市NBC 参加者:県内高校生56名
- ・9月15日 講演者:真栄平房修 会場:沖縄産業支援センター 参加者:県内高校生43名

■指導者研修会

高校での「職業体験準備講習会」の実施に際して、内容とクオリティの統一性と講師数の確保のために、マニュアルを作成しました。そのマニュアルの使い方やポイントなどを分野ごとの研修会を実施しました。

②その他